

やくばしょくいん しばたまち しょう ちゅうがくせい みな
 役場職員から柴田町の小・中学生の皆さんへ
 ふくちようちょう み と とし み
 副町長 水戸 敏見

「感染者の差別が起きないように」

さいきん に ゆーす まいにち しんがたころ なう いる す わーど みみ がっこう
 最近、ニュースで毎日「新型コロナウイルス」というワードを耳にする。学校の
 せんせい がかかると きゅうこう に、こ どもがかかると ほごしゃかい おこな
 先生がかかると休校に、子どもがかかると保護者会が行われたりするそうだ。
 いちど かかってしまうと しゅうい ちゅうめい 目で見られるともきいた。また、かんせんしゃ
 一度かかってしまうと周囲からは冷たい目で見られるとも聞いた。また、感染者が
 に ゆーす しんぶん おお と あ ようす み
 だとニュースや新聞などで大きく取り上げられる。その様子を見て、ぼくは「お
 かしいな」と感じるようになった。

なぜかという、いんふるえんざ と同じようなかんせんしょう なのに、いちど
 原因かという、インフルエンザと同じような感染症なのに、一度それにかか
 ると まわ さべつ う けていようようなきがするからだ。それはじんけんもんだい
 りと周りから差別を受けていようような気がするからだ。それは人権問題にもかか
 わるのではないか。つまり、メディアで大きく取り上げ、人々の間で恐怖と不安
 をうむ。それをまた、メディアが取り上げるといふすばいらる が、にほん
 をうむ。それをまた、メディアが取り上げるといふすばいらるが、日本をと
 りまいていのではないか。かんせん 温かい目で見えてあげてほしいなと思
 う。 (福岡県筑後市・中学生)

ふくおかけん す ちゅうがくせい がっこうしんぶん よ ぶんしょう むね あつ
 福岡県に住む中学生が、学校新聞に寄せた文章です。胸が熱くなりました。
 いぎりす てれびに ゆーす ちりょう お きたく ひと きんりん かた たちが かい
 イギリスのテレビニュースで、治療を終え帰宅する人を、近隣の方たちが「お帰
 りなさい」と 暖かく出迎える様子が伝えられていました。「ウイルス感染症に罹
 った人が悪いんじゃない。忌避すべきはウイルスなんだ」ということを心に刻ま
 なければと思ひます。これだけの厄災です。いつ身近に感染者が発生してもしか
 たありません。でも多くは、本人には何の落ち度もないは
 ずです。みんなで、しゃかいで、じょうきよう う けいれ、そして手
 助けをしあいながらかんせんしょうの収束を待つ。それ以外、手立
 てはありません。「正しく恐れる」ということは難しいこ
 とです。「わからない」ことをむやみに恐れたり、ごまかし
 てあんしんしよう とすることこそ、いちばんきけん ことだと知るべ
 きです。がくしゅう するしかないのだと思ひます。コロナウイルスとはどういふ性質の
 物で、人は、しゃかい、えいきよう う 受けざるをえないのか。どうなればあんしん
 なのか、またそれはどういふことによつて判断出来るのか。みんなで考へていか
 なければなりません。「正しく安心する」そんな日も近いはずです。



じかい ふなはざまくにのりきょういくちよう
 次回は、船迫邦則教育長です。